

- 問1 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)

1. 高床倉庫

2. 竪穴住居

3. 書院造

4. 寝殿造
- 問2 縄文時代の遺跡から発見される、人間を模した土製品（土偶）に関する記述として、当時の人々の暮らしや考え方を踏まえたものとして最も適切なものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 亡くなった豪族の権威を示すため、巨大な墓の周辺に副葬品として配置された

2. 米作りの儀式において、神の依代として用いられた青銅製の道具である

3. 定住生活が始まったことで、集落の入り口に魔除けとして立てられた石像である

4. 自然の恵みや生命の誕生を願う、当時の人々の切実な信仰心に基づき製作された
- 問3 約1万年以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された

2. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した

3. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた

4. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた
- 問4 青森県に位置し、大型掘立柱建物跡などの発見によって縄文時代の定住生活の実態を明らかにした、日本最大級の集落跡は何か。 (2025年 北海道公立入試 類似)

1. 三内丸山遺跡

2. 岩宿遺跡

3. 登呂遺跡

4. 吉野ヶ里遺跡
- 問5 縄文時代には、重く割れやすい土器や土偶の制作、長期間の生活痕跡である貝塚の形成といった文化がみられます。これらの文化が形成された背景となる当時の人々の生活様式について、最も適切な説明を選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)

1. 大型の野獣を狩猟するため、獲物を追って各地を移動しながら暮らしていた。

2. 本格的な水稲耕作を行い、大規模な環濠集落をつくって暮らしていた。

3. 支配者の権力を示すために、巨大な古墳を造営して周辺で暮らしていた。

4. 竪穴住居などを拠点とし、一定の場所に定住して暮らすようになった。
- 問6 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)

1. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた

2. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた

3. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いながら移動して生活していた

4. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた
- 問7 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。 (2024年 山形県公立入試 類似)

1. 渡来人

2. 蝦夷（えみし）

3. 琉球民族

4. アイヌ民族
- 問8 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

1. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。

2. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。

3. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。

4. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。
- 問9 縄文時代の始まりにおける自然環境の変化と、それに対応した食料資源の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

1. 乾燥した気候に変化したことで草原が広がり、それまで行われていた採集に代わって家畜の放牧が始まった

2. 海面の上昇によって沿岸部が失われたため、人々は内陸の山岳地帯に移動して大型動物の狩猟のみに専念した

3. 気候の寒冷化にともなって針葉樹林が発達し、マンモスやナウマンゾウなどの大型動物が主な食料となった

4. 気候の温暖化によって広葉樹の森が広がり、ドングリなどの木の実やシカ、イノシシなどが豊富になった
- 問10 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)

1. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。

2. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。

3. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。

4. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。
- 問11 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

1. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した土製品である。

2. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。

3. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。

4. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。
- 問12 縄文時代において、人々が定住生活を送る中で作り出した遺物のうち、表面に縄目の文様が見られることが多く、食物を煮たり保存したりするために活用された道具の名称とその特徴として適切なものはどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 高温で焼かれた灰色で硬い、貯蔵用の須恵器

2. 古墳の頂上や周囲に並べられた、人物や馬の形をした埴輪

3. 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器

4. 薄手で赤褐色をしており、文様が少なく実用的な弥生土器
- 問13 日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)

1. 磨製石器

2. 青銅器

3. 鉄器

4. 打製石器